

小特集 全国の大学生が登別に集結

観光地のぼりべつに未来への提言

～第1回全国大学政策フォーラムin登別～



▲登別温泉地獄谷を散策する大学生



▲フォーラムの様子

第1回全国大学政策フォーラムのスケジュール

9月29日(金)

| | |
|--------|--------------------|
| 14時35分 | オリエンテーション |
| 15時25分 | 市内視察 |
| 17時20分 | 講話 『登別市の観光について』 |
| 18時30分 | 交流会 |

9月30日(土)

| | |
|----|--------------------------|
| 終日 | 日本工学院北海道専門学校を拠点にフィールドワーク |
|----|--------------------------|

10月1日(日) (登別グランドホテル)

| | |
|--------|-------------------------|
| 8時30分 | グループ提言(8グループ) |
| 11時00分 | フォーラム 『登別市の観光政策を考える』 |

豊かな自然や豊富な湯量に恵まれ、北海道を代表する観光都市のぼりべつの抱えている問題は、全国の観光地が抱える課題でもあります。9月29日(金)から10月1日(日)までの3日間、同志社大学や立教大学、京都橘大学、日本福祉大学と地元から日本工学院北海道専門学校が登別市に集い、自治体の観光政策についての提言とフォーラムを行いました。今月号では、その内容についてお知らせします。

全国大学政策フォーラムの開催に当たって

現在、社会は大きな転換期を迎え、少子高齢化や環境に関する問題など解決しなければならぬことがたくさんあります。これらの問題解決のためには、多くの方が知恵を出し合い、より良い政策を創り出していく必要があります。

また、地方においても、その地域特有の問題解決に向けて、自治体では政策形成能力、政策法務能力など政策にかかわる能力の向上が求められています。

全国の大学では、こうした社会の要請に応えるため、政策系大学院や学部などが年々増加する傾向にあります。

しかし、これまで学生たちが、社会という実際の現場を検証した上で政策を、提言する機会ほとんどありませんでした。

そのため、同志社大学をはじめとする全国の大学や登別市議会、登別商工会議所、登別観光協会、登別市などが実行委員会を組織し、登別市を会場に政策の議論を行うこととなりました。

北海道を代表する観光地のぼりべつが、不況の影響や嗜好の多様化により、宿泊客が年々減少する傾向の中、新たな視点によるまちづくりの提言が、学生たちにより行われるこ

ととなりました。

会場産品の料理で 学生たちをおもてなし

婦人センターで開催したオリエンテーションに、64人の学生が元氣に顔を揃えました。

今後のスケジュールなどの説明の後、学生たちはバスで1日1万トの湯量を誇る登別温泉へ移動。登別温泉地獄谷を観光ボランティアガイドの案内で散策し、鉄泉池のお湯の湧出に歓声を上げていました。

ふおれすと鉱山では、市観光経済部長が『登別市の観光について』と題して講話。市内観光の問題点や今後の取り組みなどの内容に、学生たちは熱心に聞き入っていました。

交流会は市内のホテルで行われ、北海道を代表するジンギスカンや鮭のチャンチャン焼きなどで学生たちをもてなしました。

2日目は、日本工学院北海道専門学校を拠点に、グループ提言の資料収集のため、雷雨の中、市内などを奔走。市の若手職員が同行し、道案内などの協力をしました。

各グループとも提言をまとめるのに苦労していたようで、中には、朝までかかって発表内容をまとめているグループもありました。

それでは、入賞したグループの提言や5人のパネリストで行われたフォーラムの内容を紹介しましょう。